

絵本のひみつ～読者を楽しませる工夫とは～

家庭科班：平野 彩也花 松井 理美

要約

本研究の目的は、絵本を作っている人は読者を楽しませるためにどのような工夫をしているのかを明らかにすることである。実験（調査）によって、絵を印象的に描いたりしているということがわかった。従って本研究では、絵本は子どもにとって知識ではなく体験だということが結論付けられた。

Abstract

The purpose of this study is revealing that what to do people who make picture books to enjoy people who read this. The experiment shows that people who make picture books draw it impressive. This study concludes that it is not only knowledge for children but also experience.

1. 序論

絵本は子どもたちにとって身近なものだ。絵本は絵と少ない文章で書かれているが、活字や本への親近感、言語力を高める、心の土壌を豊かにするなどの様々な恵みをもたらしてくれるのが絵本の意義だと思う。子どもたちは同じ本を何度も読んだり大人にはピンとこない本で、大喜びしたりする。絵本の作者は読者を楽しませるためにどのような工夫をしているのかと思いいこの研究をした。

2. 研究手法

高津高校の二年生を対象に、印象に残っている絵本についてのアンケートを行う。

このアンケートの質問の内容は以下の通りである。

① 次の絵本のうち特に印象に残っているものを三つ選んでください。

1、ぐりとぐら 2、はらぺこあおむし 3、スイミー 4、バムとケロ

5、おまえ うまそうだな 6、ねないこだれだ 7、おおきなかぶ

8、100万回生きたねこ 9、100階建ての家 10、11ぴきのねことぶた

② ①の絵本が印象に残った理由があれば書いてください。

その結果をもとになぜそれらの絵本が印象に残っているのかを考える。

3. 結果

印象に残っている絵本を選んでもらうアンケートの結果はぐりとぐら、はらぺこあおむし、スイミー、おおきなかぶ、100万回生きたねこ、おまえ うまそうだな、100階建ての家、

ねないこだれだ、バムとケロ、11ぴきのねことぶたという順になった。

選んだ絵本が印象に残っている理由では小さい頃に読んだ、絵が印象的だった、よく読んだ、絵の構成や話の内容、授業で扱ったり読み聞かせなどの意見があった。

4. 考察

「どうぶつ」「食べ物」「のりもの」が登場する絵本に興味を持ちやすい
五感を揺さぶる体験をさせてくれる絵本
読み聞かせの体験は記憶に残りやすい
絵本に書かれているものは子どもにとって本物
知識は忘れても、経験は残る

5. 結論

子どもにとって絵本は知識ではなく、体験であると考えた。絵本を読んでもらったという体験そのものが愛された記憶につながり生涯にわたって自己肯定感を高め、幸せに生きるうえでとても大切なものである。

6. 参考文献

余郷裕次(2011).『絵本のひみつ』.新潟日報事業社

<https://7mori.net/picture-book/>(2017).「こどもは絵本をどんな風に楽しんでいるの？」